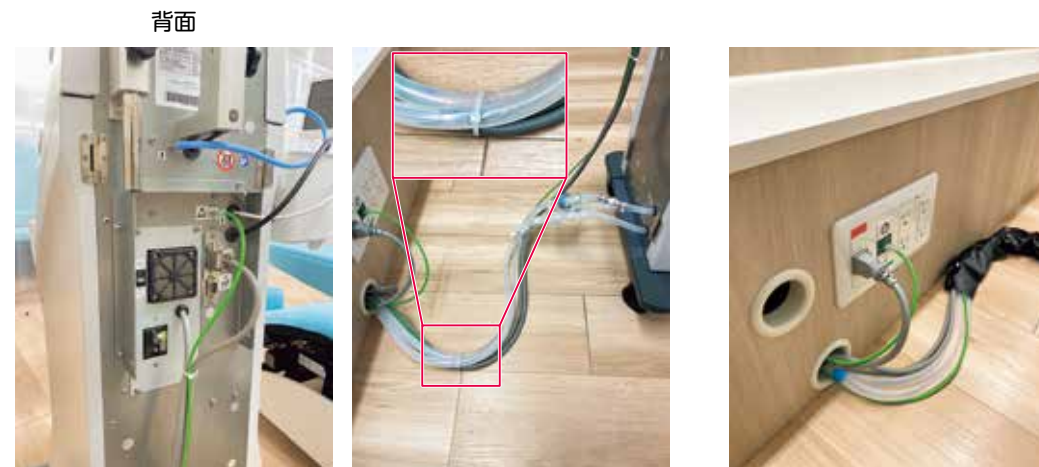
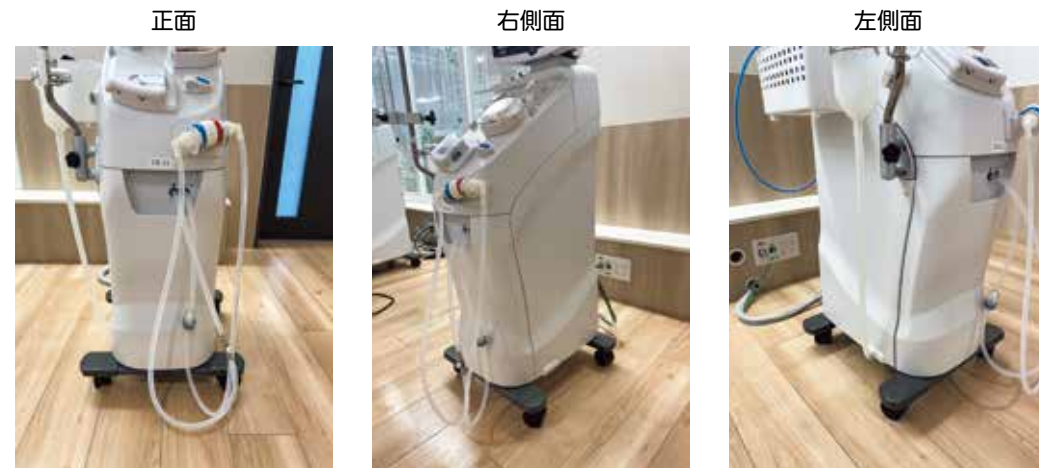


Process 3 血液透析装置の始業点検

治療が安全に行える状態か確認するために点検する。治療前の限られた時間で行うため、重要な項目に絞り実施する。

1 外観確認

- 装置の外装に破損がないか確認する。



- 通信ケーブルやコネクタ類の接続を確認する。

- 給排水ホースに損傷や折れ曲りがないか確認する。結束バンドなどでチューブを束ねることにより予防できる。

- 血液透析装置の電源プラグが確実に接続されているか確認する。

注意!

衝突させた痕跡がある場合は、内部が破損して液漏れや誤動作につながるおそれがある。

2 液漏れの有無の確認



- 装置の下部や周辺を見て、液漏れがないか確認する。

Point

血液透析装置下部の水漏れは発見しにくいので、覗き込むように確認する



Point

エンドトキシン捕捉フィルタ (ETRF) が装置外部に取り付けられている場合、接続部が破損しやすい。

装置背面



エンドトキシン捕捉フィルタ (ETRF)

MEMO

4 ダイアライザと血液回路の装着



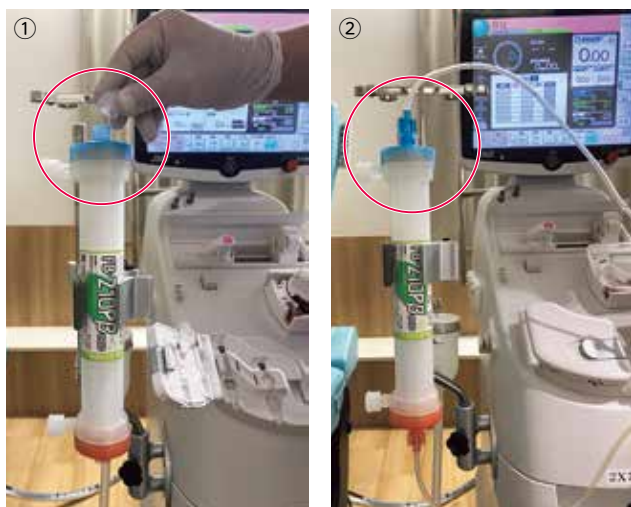
- ダイアライザを、静脈側(青)を上にして、ダイアライザホルダに装着する。

注意!

ダイアライザと血液回路の接続を誤ると、血液と透析液の流れる向きが並行方向になり透析効率が大きく下がる。この並行方向の接続を「逆接続」と呼ぶ。ダイアライザでは、血液回路との接続部を赤色と青色にして誤接続防止の工夫が成されているが、なかには色の区別がない製品もあるため、逆接続に注意する。

- ダイアライザ、動脈側・静脈側の血液回路のキャップを外し接続する。ダイアライザの種類(ドライタイプ、ウエットタイプ)により接続方法が異なる。

ドライタイプの場合



- ①ダイアライザ、動脈側・静脈側の血液回路のキャップを外す。
- ②血液回路を接続する。

ウエットタイプの場合



- ①ダイアライザは充填液で満たされているので、動脈血液回路の空気を流さないように、まず静脈側の血液回路をダイアライザに接続する。
- ②動脈側の血液回路は、生理食塩液で満たした後に接続する(「Process 5 プライミング」を参照)。

注意!

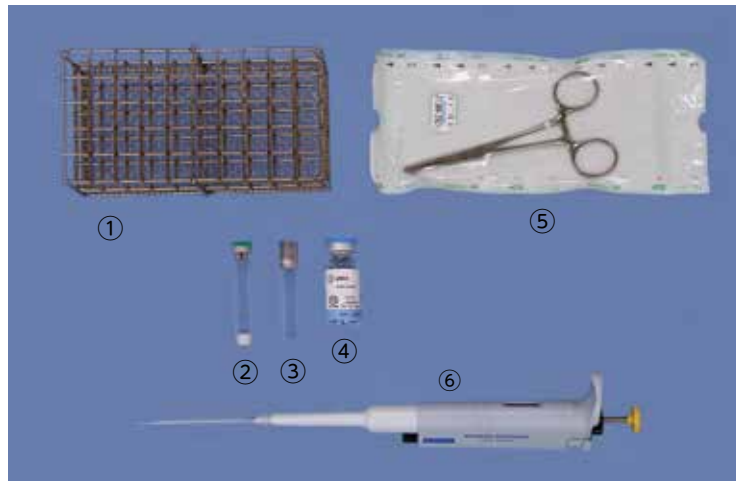
血液回路をダイアライザに接続する際、翼付きロックのネジ山を斜めに挿入してしまう(←)と、液漏れが生じる。



Process 2 エンドトキシン (ET) の測定 (比色法)

1 物品の準備

物品



EGリーダーSV-12
〔提供：生化学工業(株)〕

- ①試験管立て
- ②LAL試薬のバイアル
- ③ガラス管(検体用)
- ④緩衝液
- ⑤滅菌した鉗子(緩衝液のキャップを外すのに用いる)
- ⑥マイクロピペット
- ⑦ET測定装置
・攪拌機

Point

エンドトキシン測定では、検体を放置した時間や周辺温度で誤差が生じる。そのため、採取した検体は冷蔵庫(4℃付近)で保管し、2時間以内に検査する。

2 検体の準備



- 「Process 1」で採取した検体を、ガラス管に移す。

Point

「Process 1」では検体をシリンジで採取したが、測定作業ではマイクロピペットで検体を扱うため、操作性を踏まえ、あらかじめ検体をガラス管に移しておく。

3 LAL 試薬の準備



- 緩衝液の蓋を、滅菌した鉗子を使用して外す。

- マイクロピペットにチップを装着し、緩衝液の瓶に触れないよう、緩衝液を200μL採取する。採取した緩衝液を、全量、LAL試薬のバイアルに添加する。



Point

マイクロピペットをもつ手の震えによりチップが瓶に触れないように、反対の手で支える。